

2012/11/6

柏の景気情報（平成24年11月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成24年11月分）

○ 調査期間 : 平成24年11月20日 ~ 11月27日

○ 調査対象 : 柏市内161事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	161	101	62.7%
建設	45	29	64.4%
製造	35	18	51.4%
卸・小売	44	34	77.3%
サービス	37	20	54.1%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成24年11月の調査結果のポイント】

◀ 業況DIは悪化 先行きの見通しは不透明 ▶

○11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲39.6(前月水準▲32.6)となり、マイナス幅が▲7.0ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲50.0(同▲35.0)、製造業▲27.7(同▲18.1)、卸小売業▲55.8(同▲51.4)、建設業▲20.6(同▲18.5)である。

【建設業】からは、「工事価格の下落が続いている。責任ある施工が出来るのか心配」(電気工事業)、「12月に向けて仕事量の確保はできたが特別利益がでる現場は無いので平年並みの予想」(土木工事業)、「最近テレビで畳の紹介があった効果か一般のお客様の畳工事の依頼が増加」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「年末が近くなり、荷動きが徐々に増えつつあり、例年と変わらない動き。年末年始に期待を持ちたい。但し、衆議院議員選挙は売上下方懸念としてあり」(酒類製造業)、「年内は仕事量も確保できているが、年明けからの仕事量が不明。短納期化が益々進み、繁閑の差が有る。また、同一納期で仕事が重なると「外注依存度」が上がり利益圧迫している」(紙製容器製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「11月前半の暖かさも一息ついてやっと寒くなってきました。食肉は鍋の季節で寒くなると商品が売れるので今後に期待。原発の風評被害はまだあり早く終息してもらいたいです。柏はホットスポットで危険なところというイメージから遠方のお客さんが戻ってきません」(食肉小売業)、「客数に大きな変化はないが客単価は確実に落ちている。必要最低限の買い物しかしてくれない。街中というか市内を歩く人も少ないし道路も空いている。原材料は近いうちにまた値上げの話がある。見通しは決して明るくない」(菓子・パン小売業)、「6月まで下落基調だった仕入が一転し、五か月連続値上げでついに価格改正せざるを得ない時が来た。10月から大手各社値上がりで多少は思い切りいじることができる。冬場に向かい燃料費負担増加になる消費者に気の毒だが会社存続にはやむを得ない」(燃料小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「宿泊のマーケットが変わらない中で、新規参入ホテルによりお客の奪い合い、予約経路の多くが価格の低いネット販売に移り、一室単価を落す事となり利益の減少につながる。宴会は、企業宴席の減少が目立ち売り上げは昨年並みに推移していたが、衆議院の解散により予約が入っていた大型宴席が取り消しとなり売り上げの損失となる」(ホテル)、「個人需要、法人需要ともに申し込みの間際化傾向が続く。先行き見通しが立ちにくく、攻めの経営で数字を作っていく」(旅行業)、「お客様は少しずつ戻ってきています。ただ地価の下落は止まりません。安い物件が売却になっています。相変わらず県外からのお客様はほとんど反響がない状況です」(不動産管理業)などのコメントが寄せられた。

◎消費税

各業種から、「消費税のUP前の駆け込み需要」(一般土木建築工事業)、「消費税増税が影響しているのか10月から来年3月まで工事が集中している。新築工事は急な工事ではないがリフォームの工事が増えている。工事業者全般で忙しいようで各工事がずれ毎日段取りに悪戦苦闘している。工事施工単価は下がり、材料は高騰している中で人手の確保が困難となっている。今年前年は震災による工事の遅れ、材料不足による工事の遅れのため工事が集中したが、今回は増税前の工事増と思われる」(その他の職別工事業)、「衆議院解散で来年の不動産の動きが活発化するのではないかと思います。消費税増税は景気にはかなりのマイナスだと思います」(不動産賃貸業)などのコメントが寄せられた。

◎冬物不調

各業種から、「秋物の季節が飛んでしまったので、冬物に期待したのだが不調のまま推移。商品の生産調整が進んでいるので低額商品は多くあるがマークダウンしたセール商品は出づらくなっている。本格的な冬物となった時のコート類がメーカー段階で品薄となっている」(婦人・子供服小売業)、「冬物衣料を見ても売れているのは小物中心、コート類は不振。暖冬予想から厳冬へ変わったので今後に期待」(その他の各種商品小売業)、「冬物衣料の動きが鈍い。また、近隣地区にスーパーができ、当地区までお客の流動がない」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

◎クリスマス商戦

各業種から、「クリスマス商戦もケーキ等価格が低下。サイズも小さくなっている」(その他の各種商品小売業)、「館内装飾を全館一斉にクリスマス装飾にし、クリスマスムードを高めたため、実売期である重衣料やブーツ、季節商材などが動き、後半に掛けても好調に推移している」(その他の各種商品小売業)、「11月に入り動きが少なく、盛り上がりに欠けています。この感じだと繁盛期のクリスマスも心配です」(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
6月	▲28.8	▲13.3	▲22.2	▲57.5	▲6.2
7月	▲29.8	▲14.2	▲11.7	▲48.5	▲35.2
8月	▲38.0	▲24.1	▲26.3	▲60.0	▲29.4
9月	▲36.9	▲28.0	▲23.5	▲58.8	▲18.7
10月	▲32.6	▲18.5	▲18.1	▲51.4	▲35.0
11月	▲39.6	▲20.6	▲27.7	▲55.8	▲50.0
見通し	▲33.6	▲13.7	▲27.7	▲52.9	▲35.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成24年11月の業況についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲39.6(前月水準▲32.6)となり、マイナス幅が▲7.0ポイント拡大した。

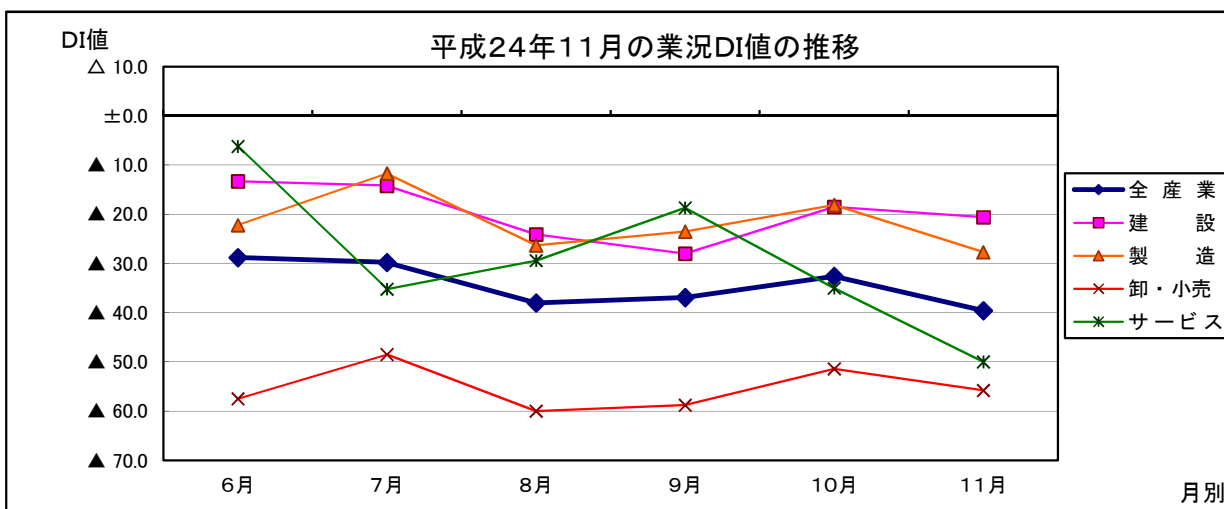
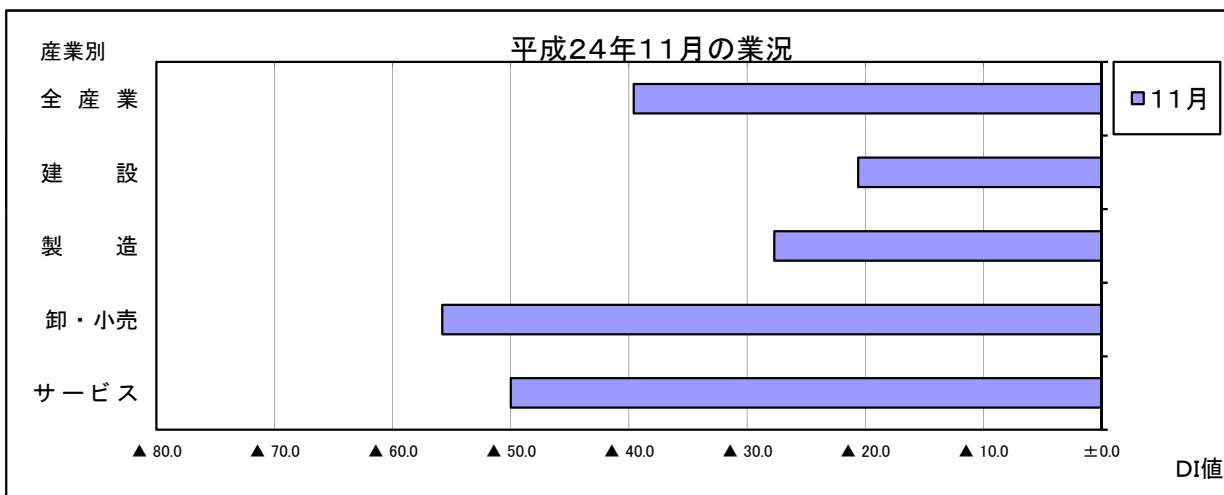
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲50.0(同▲35.0)、製造業▲27.7(同▲18.1)、卸小売業▲55.8(同▲51.4)、建設業▲20.6(同▲18.5)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲33.6(前月水準▲31.7)となり、マイナス幅が▲1.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲27.7(同▲36.3)、建設業▲13.7(同▲18.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲35.0(同▲20.0)、卸小売業▲52.9(同▲45.7)である。

平成24年11月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲28.8	▲29.8	▲38.0	▲36.9	▲32.6	▲39.6	▲33.6(▲31.7)
建設	▲13.3	▲14.2	▲24.1	▲28.0	▲18.5	▲20.6	▲13.7(▲18.5)
製造	▲22.2	▲11.7	▲26.3	▲23.5	▲18.1	▲27.7	▲27.7(▲36.3)
卸・小売	▲57.5	▲48.5	▲60.0	▲58.8	▲51.4	▲55.8	▲52.9(▲45.7)
サービス	▲6.2	▲35.2	▲29.4	▲18.7	▲35.0	▲50.0	▲35.0(▲20.0)



【平成24年11月の売上についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲27.7(前月水準▲21.1)となり、マイナス幅が▲6.6ポイント拡大した。

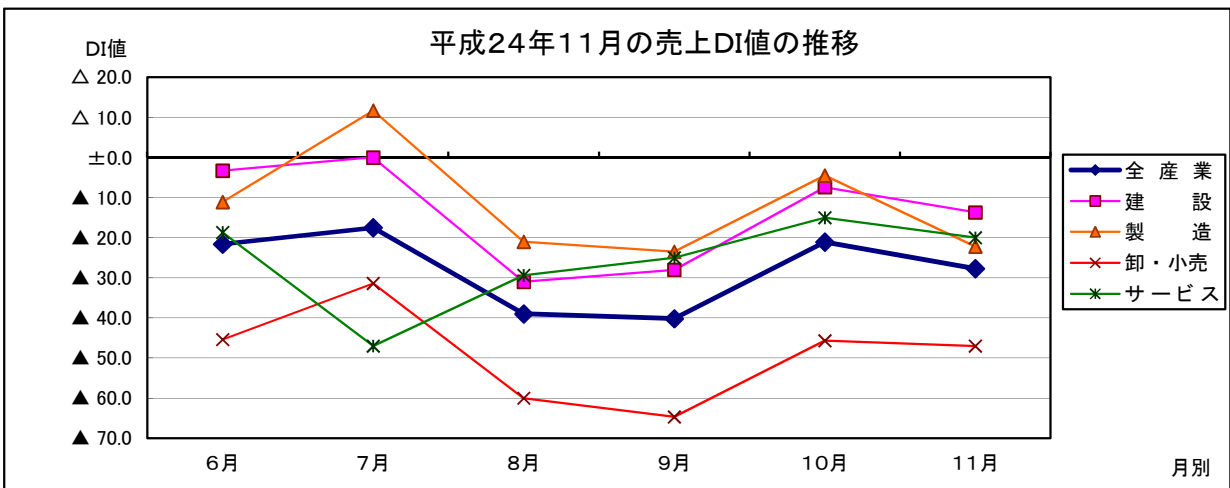
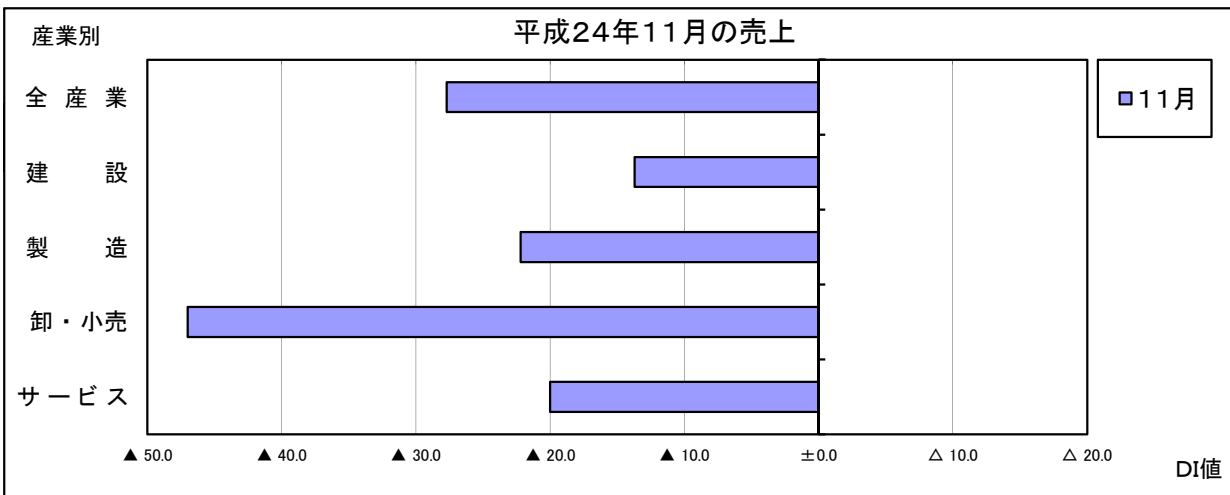
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲22.2(同▲4.5)、建設業▲13.7(同▲7.4)、サービス業▲20.0(同▲15.0)、卸小売業▲47.0(同▲45.7)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.9(前月水準▲8.6)となり、マイナス幅が1.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業17.2(同▲11.1)であり、28.3ポイントと大幅に改善する見通しである。変らない見通しの業種は、サービス業5.0(同5.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲33.3(同▲9.0)、卸小売業▲20.5(同▲14.2)である。特に、製造業はマイナス幅が▲24.3ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成24年11月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲21.6	▲17.5	▲39.0	▲40.2	▲21.1	▲27.7	▲6.9(▲8.6)
建設	▲3.3	±0.0	▲31.0	▲28.0	▲7.4	▲13.7	△17.2(▲11.1)
製造	▲11.1	△11.7	▲21.0	▲23.5	▲4.5	▲22.2	▲33.3(▲9.0)
卸・小売	▲45.4	▲31.4	▲60.0	▲64.7	▲45.7	▲47.0	▲20.5(▲14.2)
サービス	▲18.7	▲47.0	▲29.4	▲25.0	▲15.0	▲20.0	△5.0(△5.0)



【平成24年11月の採算についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲40.5(前月水準▲31.7)となり、マイナス幅が▲8.8ポイント拡大した。

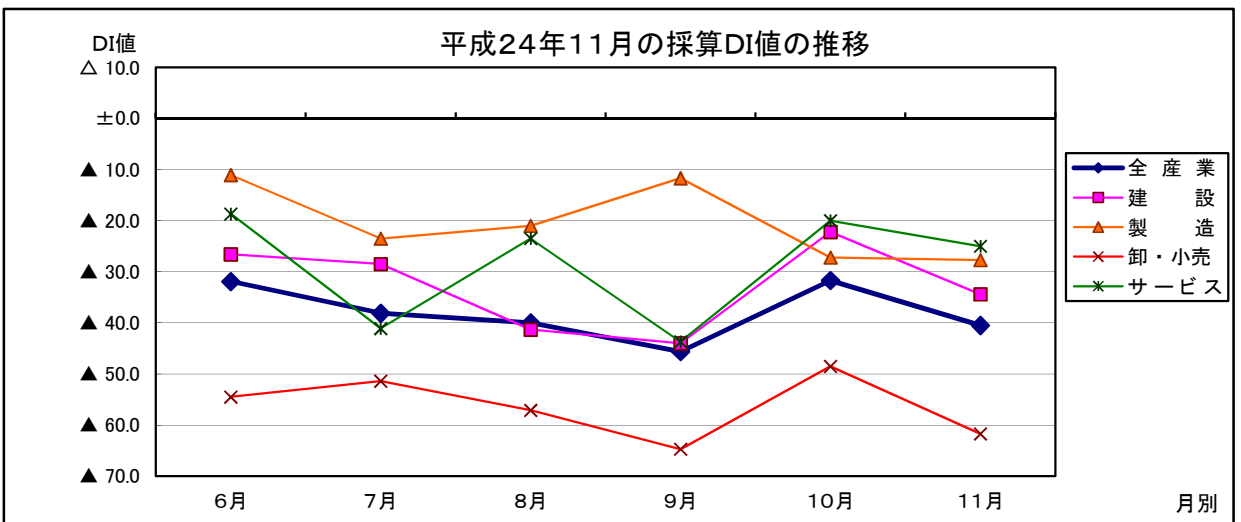
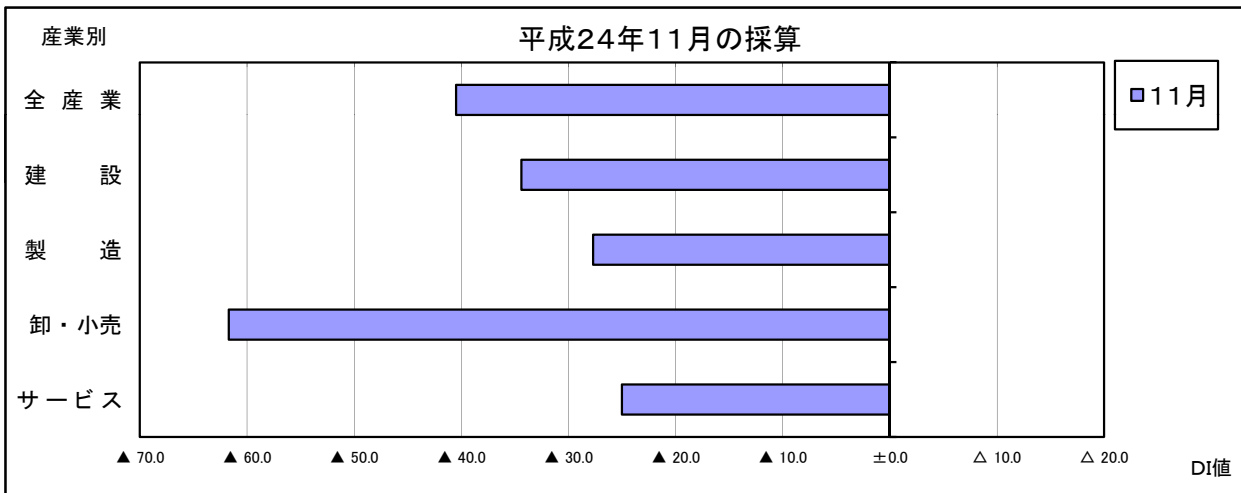
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲61.7(同▲48.5)、建設業▲34.4(同▲22.2)、サービス業▲25.0(同▲20.0)、製造業▲27.7(同▲27.2)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲24.7(前月水準▲16.3)となり、マイナス幅が▲8.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲10.0(同▲15.0)、建設業▲17.2(同▲18.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲38.8(同▲9.0)、卸小売業▲32.3(同▲20.0)である。特に、製造業はマイナス幅が▲29.8ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成24年11月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲31.9	▲38.1	▲40.0	▲45.6	▲31.7	▲40.5	▲24.7(▲16.3)
建設	▲26.6	▲28.5	▲41.3	▲44.0	▲22.2	▲34.4	▲17.2(▲18.5)
製造	▲11.1	▲23.5	▲21.0	▲11.7	▲27.2	▲27.7	▲38.8(▲9.0)
卸・小売	▲54.5	▲51.4	▲57.1	▲64.7	▲48.5	▲61.7	▲32.3(▲20.0)
サービス	▲18.7	▲41.1	▲23.5	▲43.7	▲20.0	▲25.0	▲10.0(▲15.0)



【平成24年11月の仕入単価についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17.8(前月水準▲11.5)となり、マイナス幅が▲6.3ポイント拡大した。

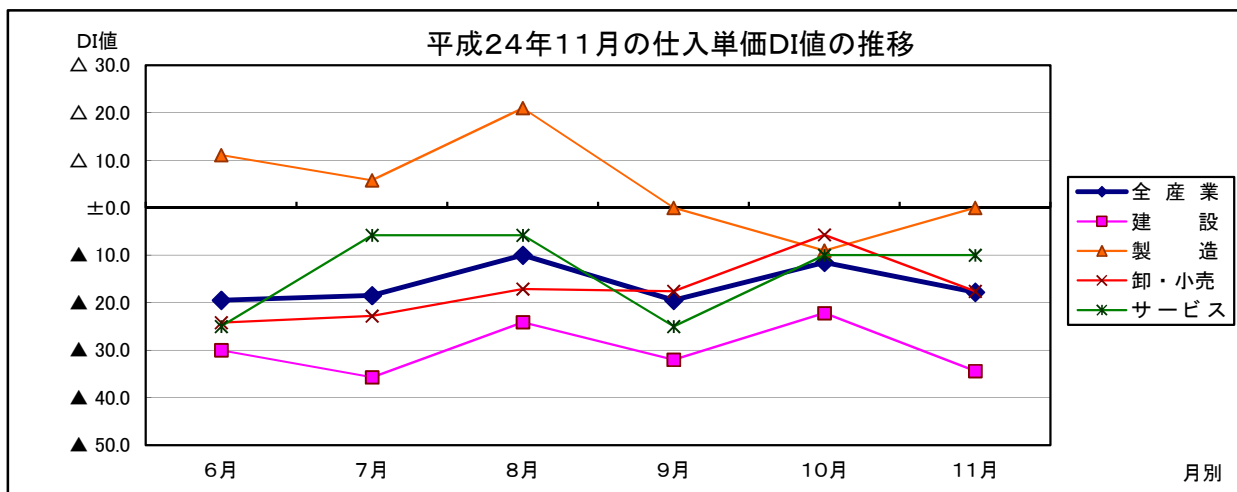
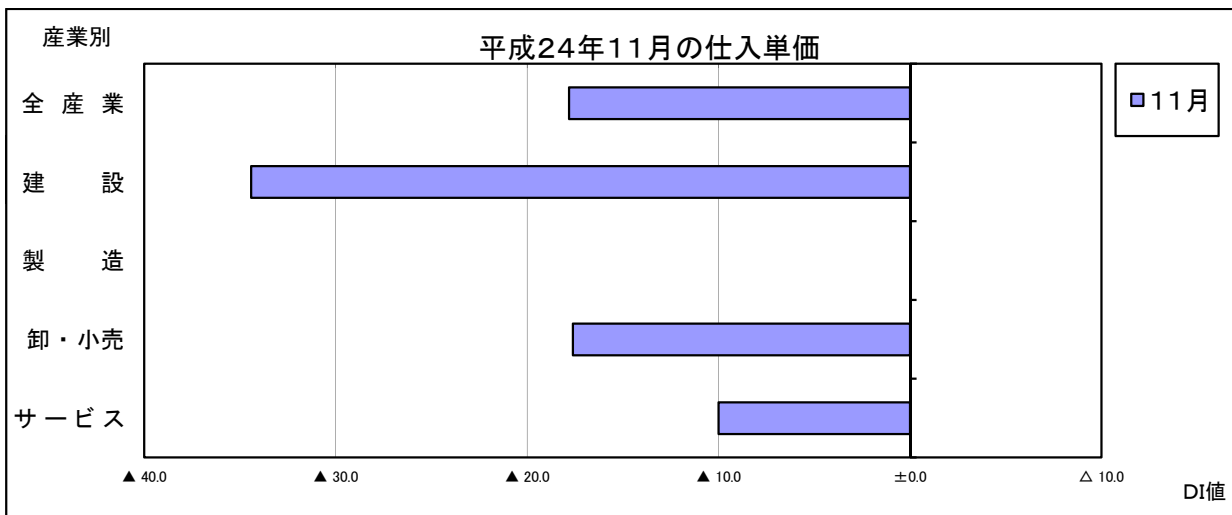
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同▲9.0)である。変らない業種は、サービス業▲10.0(同▲10.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲34.4(同▲22.2)、卸小売業▲17.6(同▲5.7)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.7(前月水準▲15.3)となり、マイナス幅が▲5.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲5.5(同▲13.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲34.4(同▲18.5)、サービス業▲20.0(同▲10.0)、卸小売業▲17.6(同▲17.1)である。

平成24年11月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲19.5	▲18.5	▲10.0	▲19.5	▲11.5	▲17.8	▲20.7(▲15.3)
建設	▲30.0	▲35.7	▲24.1	▲32.0	▲22.2	▲34.4	▲34.4(▲18.5)
製造	△11.1	△5.8	△21.0	±0.0	▲9.0	±0.0	▲5.5(▲13.6)
卸・小売	▲24.2	▲22.8	▲17.1	▲17.6	▲5.7	▲17.6	▲17.6(▲17.1)
サービス	▲25.0	▲5.8	▲5.8	▲25.0	▲10.0	▲10.0	▲20.0(▲10.0)



【平成24年11月の従業員についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、2.9(前月水準▲2.8)となり、プラス幅が5.7ポイント拡大した。

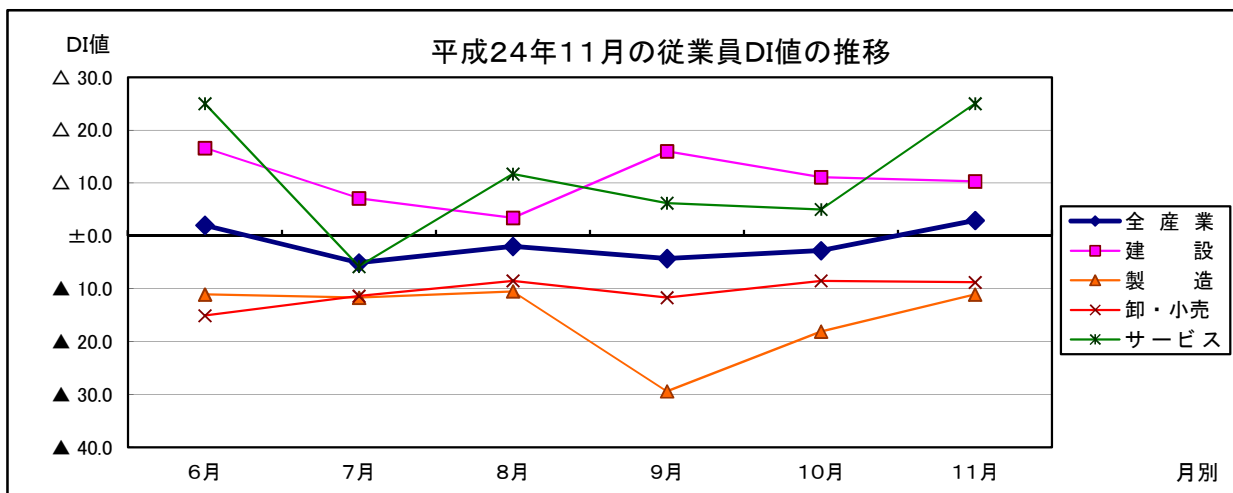
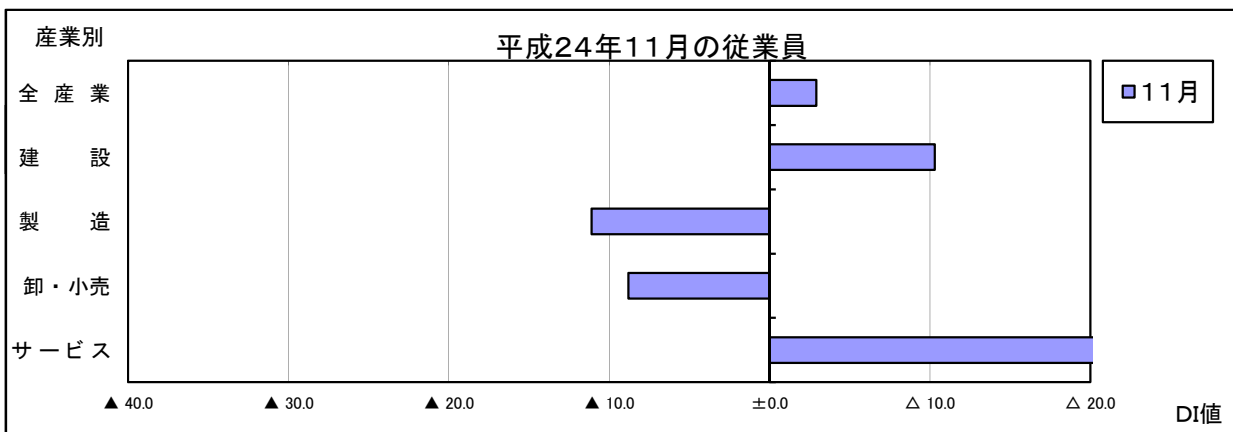
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業25.0(同5.0)であり、プラス幅が20.0ポイントと大幅に拡大した。マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲11.1(同▲18.1)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業10.3(同11.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲8.8(同▲8.5)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、7.9(前月水準2.8)となり、プラス幅が5.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業25.0(同15.0)、建設業20.6(同11.1)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲2.9(同▲5.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲11.1(同▲4.5)である。

平成24年11月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	△2.0	▲5.1	▲2.0	▲4.3	▲2.8	△2.9	△7.9(△2.8)
建設	△16.6	△7.1	△3.4	△16.0	△11.1	△10.3	△20.6(△11.1)
製造	▲11.1	▲11.7	▲10.5	▲29.4	▲18.1	▲11.1	▲11.1(▲4.5)
卸・小売	▲15.1	▲11.4	▲8.5	▲11.7	▲8.5	▲8.8	▲2.9(▲5.7)
サービス	△25.0	▲5.8	△11.7	△6.2	△5.0	△25.0	△25.0(△15.0)



【平成24年11月の資金繰りについての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17.8(前月水準11.5)となり、マイナス幅が▲6.3ポイント拡大した。

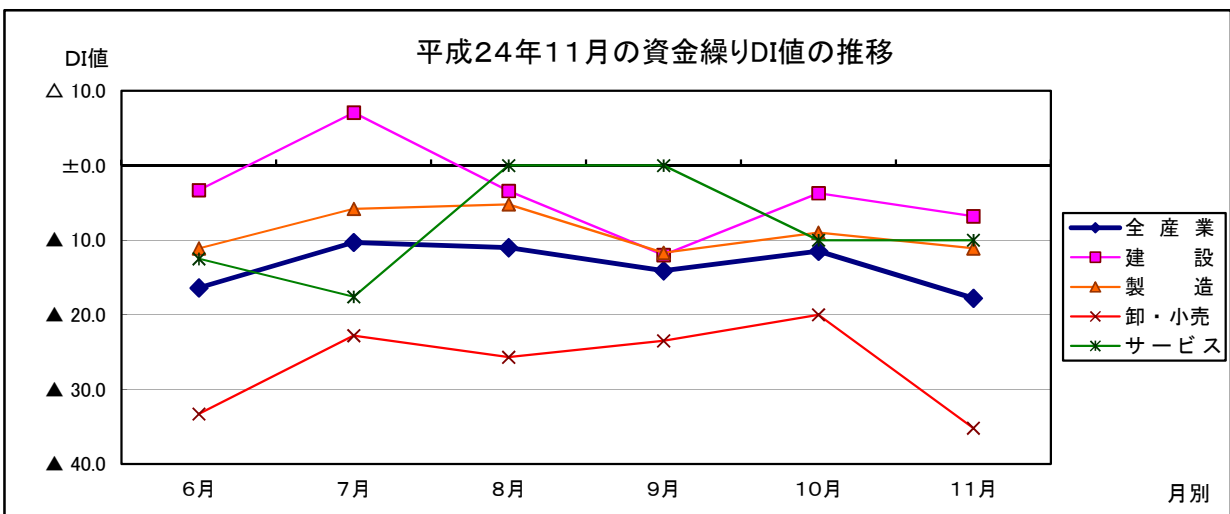
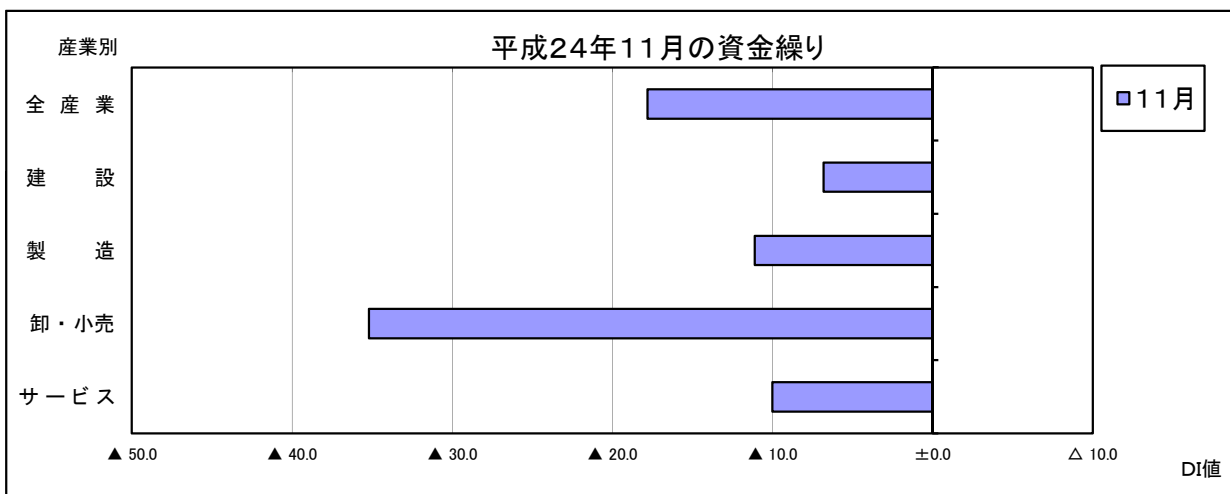
業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、サービス業▲10.0(同▲10.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲35.2(同▲20.0)、建設業▲6.8(同▲3.7)、製造業▲11.1(同▲9.0)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲13.8(前月水準▲7.6)となり、マイナス幅が▲6.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同▲5.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲29.4(同▲14.2)、製造業▲16.6(同▲9.0)、建設業▲3.4(同±0.0)である。

平成24年11月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成24年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲16.4	▲10.3	▲11.0	▲14.1	▲11.5	▲17.8	▲13.8(▲7.6)
建設	▲3.3	△7.1	▲3.4	▲12.0	▲3.7	▲6.8	▲3.4(±0.0)
製造	▲11.1	▲5.8	▲5.2	▲11.7	▲9.0	▲11.1	▲16.6(▲9.0)
卸・小売	▲33.3	▲22.8	▲25.7	▲23.5	▲20.0	▲35.2	▲29.4(▲14.2)
サービス	▲12.5	▲17.6	±0.0	±0.0	▲10.0	▲10.0	±0.0(▲5.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 27.7	▲ 6.9	▲ 40.5	▲ 24.7	▲ 17.8	▲ 20.7	△ 2.9	△ 7.9
建設	▲ 13.7	△ 17.2	▲ 34.4	▲ 17.2	▲ 34.4	▲ 34.4	△ 10.3	△ 20.6
製造	▲ 22.2	▲ 33.3	▲ 27.7	▲ 38.8	±0.0	▲ 5.5	▲ 11.1	▲ 11.1
卸・小売	▲ 47.0	▲ 20.5	▲ 61.7	▲ 32.3	▲ 17.6	▲ 17.6	▲ 8.8	▲ 2.9
サービス	▲ 20.0	△ 5.0	▲ 25.0	▲ 10.0	▲ 10.0	▲ 20.0	△ 25.0	△ 25.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 39.6	▲ 33.6	▲ 17.8	▲ 13.8
建設	▲ 20.6	▲ 13.7	▲ 6.8	▲ 3.4
製造	▲ 27.7	▲ 27.7	▲ 11.1	▲ 16.6
卸・小売	▲ 55.8	▲ 52.9	▲ 35.2	▲ 29.4
サービス	▲ 50.0	▲ 35.0	▲ 10.0	±0.0

【平成24年11月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況	キーワード	業種
建設業	消費税のUP前の駆け込み需要	消費税 駆け込み需要	一般土木建築工事業
	工事価格の下落が続いている。責任ある施工が出来るのか心配	工事価格下落	電気工事業
	大きな変化はないが資金繰りが少し楽になりそうな見通し	資金繰り	一般土木建築工事業
	年度末にかけて仕事が入ってきております	年末工事	塗装工事業
	消費税増税が影響しているのか10月から来年3月まで工事が集中している。新築工事は急な工事ではないがリフォームの工事が増えている。工事業者全般で忙しいようで各工事がずれ毎日段取りに悪戦苦闘している。工事施工単価は下がり、材料は高騰している中で人手の確保が困難となっている。今年前年は震災による工事の遅れ、材料不足による工事の遅れのため工事が集中したが、今回は増税前の工事増と思われる。また業者の廃業転職倒産などが続いたため、工事が増加となったようだ。この仕事の忙しさに下請けからの賃上げ要求も出ているが、施工単価は未だに下がり材料は高騰の為仕事の確保も厳しくなりそう	消費税 工事集中 リフォーム工事増加 人員確保困難 材料不足 消費税前需要 賃上げ要求 施工単価下落	その他の職別工事業
	12月に向けて仕事量の確保はできたが特別利益がでる現場は無いので 平年並みの予想	年末工事	土木工事業
	最近テレビで畳の紹介があった効果か一般のお客様の畳工事の依頼が増加	受注増加	内装工事業
製造業	部品加工の取引先様や商社からは「もっと欲しい」との声が数多くある。弊社からの発注量が減少した面もあるが、全体的に薄い感であり、話を聞いても「良い」という業種が見当たらない。	発注量減少	その他の機械・同部品製造業
	年末が近くなり、荷動きが徐々に増えつつあり、例年と変わらない動き。年末年始に期待を持ちたい。但し、衆議院議員選挙は売上下方懸念としてあり	年末動向	酒類製造業
	年内は仕事量も確保できているが、年明けからの仕事量が不明。短納期化が益々進み、繁閑の差が有る。また、同一納期で仕事が重なる「外注依存度」が上がり利益圧迫している。	仕事量確保 短納期 利益圧迫	紙製容器製造業
卸小売業	秋物の季節が飛んでしまったので、冬物に期待したのだが不調のまま推移。商品の生産調整が進んでいるので低額商品は多くあるがマークダウンしたセール商品は出づらくなっている。本格的な冬物となった時のコート類がメーカー段階で品薄となっている	冬物不調 生産調整 低額商品 冬物品薄	婦人・子供服小売業
	冬物衣料を見ても売れているのは小物中心、コート類は不振。暖冬予想から厳冬へ変わったので今後期待。クリスマス商戦もケーキ等価格が低下。サイズも小さくなっている	冬物不調 クリスマス商戦	その他の各種商品小売業
	お歳暮商戦の売り上げペースが例年に比べ早い 11月度は、冬物衣料のフェアを開催、またクリスマスイルミネーションを点灯させ季節感を演出。気温が低下したことから後押しし、顧客の購買意欲が高まり売上高は前年を上回る推移となった。また2日間「WEBキャッシュバックキャンペーン」を実施、各イベントとの相乗効果から売上高を押し上げた。14日からは館内装飾を全館一斉にクリスマス装飾にし、クリスマスムードを高めたため、実売期である重衣料やブーツ、季節商材などが動き、後半に掛けても好調に推移している。	お歳暮 クリスマス商戦 売上好調	百貨店 その他の各種商品小売業
	牛丼屋さんでは260円の牛丼が食べられ、次の週、数軒隣の牛丼屋さんでは240円の牛丼、それに対抗してか、数軒隣のハンバーガー屋さんでは100円でハンバーガーが食べられる…そんな時代です。地元の飲食店は嫌々値下げして、儲からなくなり、夜遊びに行けなくなりました。大手スーパーは資本の力でお客様を集客しようと安いPB商品等で質を下げ続けていますから、生産者・製造メーカー・物流会社さん達も利幅が取れず困っています。消費者は安く買えと最初は喜んでいましたが、よくよく考えたら自身の給料は下がり続けていた…そんな時代です。ネットは便利で格安です。ギタリストの私はネットで愛用の弦を480円で購入出来るとても便利な時代だと思っていたのですが、近所の楽器屋さんにも足を運ぶとそこには素敵な店長さんがいました。色々と楽器のことを相談したら親切に対応してくれました。もしもネットで買い続けたらこういう店が無くなってしまふ…そう思ってから「安いから」という理由だけでネットで買うのを止めました。地産地消、地元の企業での消費…これからもっともっと推進するべ	価格競争 地産地消	各種食料品小売業

【平成24年11月の業種別業界内トピックス】

	11月前半の暖かさ一息ついてやっと寒くなってきました。食肉は鍋の季節で寒くなると商品が売れるので今後に期待。原発の風評被害はまだあり早く終息してもらいたいです。柏はホットスポットで危険なところというイメージから遠方のお客さんが戻ってきません	天候の影響 風評被害 客数減少	食肉小売業
	11月に入り動きが少なく、盛り上がり欠けています。この感じだと繁盛期のクリスマスも心配です	個人消費低下 クリスマス商戦	菓子・パン小売業
	客数に大きな変化はないが客単価は確実に落ちている。必要最低限の買い物しかしてくれない。街中というか市内を歩く人も少ないし道路も空いている。原材料は近いうちにまた値上げの話がある。見通しは決して明るくない	客単価下落 買い控え 材料高騰 先行き不透明	菓子・パン小売業
	相変わらず、お客様の買い控え感があります	買い控え	菓子・パン小売業
	今月の野菜は冬季となって冷え込みはしてきたが一部の入荷減から高値はあるものの全体的な取扱高は減少している。また果実は単価のばらつきはあるが全体的に前年並みの推移になっています。景気の低迷が続いている感です。これからの国政選挙で日本のデフレ・経済低迷にある状況から変化する事も期待したいが創意工夫で活性化を図ります	野菜取扱減少 果実平年並み 景気低迷 創意工夫	食料・飲料卸売業
	6月まで下落基調だった仕入が一転し、五か月連続値上げでついに価格改正せざるを得ない時が来た。10月から大手各社値上がりで多少は思い切りいじることができる。冬場に向かい燃料費負担増加になる消費者に気の毒だが会社存続にはやむを得ない	仕入価格上昇 大手値上げ 燃料費増加	燃料小売業
	忘年会新年会に期待	忘年会	公衆浴場業
	30周年大売り出しを実施した。効果があったため特別価格商品の提供は今後も考えていきたい。年末は宴会予約は金土日に集中している	特別価格 予約土日集中	酒場・ビヤホール
	宿泊のマーケットが変わらない中で、新規参入ホテルによりお客の奪い合い、予約経路の多くが価格の低いネット販売に移り、一室単価を落す事となり利益の減少につながる。宴会は、企業宴席の減少が目立ち売り上げは昨年並みに推移していたが、衆議院の解散により予約が入っていた大型宴席が取り消しとなり売り上げの損失となる。	新規参入 ネット販売増加 利益減少 衆議院解散 宴席減少 売上損失	ホテル
	販促用に現金割引の会員カード発行をしリピーターは多いが利益に繋がらない。冬物衣料の動きが鈍い。また、近隣地区にスーパーができ、当地区までお客の流動がない。	会員カード発行 リピーター増加 冬物不調 スーパー開店	その他の飲食料品小売業
サービス業	個人需要、法人需要ともに申し込みの間際化傾向が続く。先行き見通しが立ちにくく、攻めの経営で数字を作っていく	予約間際化 先行き不透明	旅行業
	お客様は少しずつ戻ってきています。ただ地価の下落は止まりません。安い物件が売却になっています。相変わらず県外からのお客様はほとんど反響がない状況です	地価下落 県外客なし	不動産管理業
	衆議院解散で来年の不動産の動きが活発化するのではないかと思います。消費税増税は景気にはかなりのマイナスと思います	衆議院解散 消費税 景気悪化	不動産賃貸業
	都市近郊のゴースタウン化が問題になりつつあります。新築住宅優遇税制を、中古住宅や賃貸住宅の活用促進した場合への優遇税制へシフトしていくことも考えるべきだと思います	ゴースタウン化 住宅優遇税制	不動産賃貸・管理業
	IT企業全般的にクラウドシステム導入に向け忙しくしているものの受注物件は単価が低く短い案件がほとんど。固定費の捻出に苦慮するばかり。	クラウドシステム導入 受注単価安 固定費捻出苦慮	ソフトウェア業

◎消費税

- ・ 消費税のUP前の駆け込み需要 一般土木建築工事業
- ・ 消費税増税が影響しているのか10月から来年3月まで工事が集中している。新築工事は急な工事ではないがリフォームの工事が増えている。工事業者全般で忙しいようで各工事がずれ毎段取りに悪戦苦闘している。工事施工単価は下がり、材料は高騰している中で人手の確保が困難となっている。今年前年は震災による工事の遅れ、材料不足による工事の遅れのため工事が集中したが、今回は増税前の工事増と思われる。 その他の職別工事業
- ・ 衆議院解散で来年の不動産の動きが活発化するのではないかと思います。消費税増税は景気にはかなりのマイナスと思います 不動産賃貸業

◎冬物不調

- ・ 秋物の季節が飛んでしまったので、冬物に期待したのだが不調のまま推移。商品の生産調整が進んでいるので低額商品は多くあるがマークダウンしたセール商品は出づらくなっている。本格的な冬物となった時のコート類がメーカー段階で品薄となっている 婦人・子供服小売業
- ・ 冬物衣料を見ても売れているのは小物中心、コート類は不振。暖冬予想から厳冬へ変わったので今後期待。 その他の各種商品小売業
- ・ 冬物衣料の動きが鈍い。また、近隣地区にスーパーができ、当地区までお客の流動がない。 その他の各種商品小売業

◎クリスマス商戦

- ・ クリスマス商戦もケーキ等価格が低下。サイズも小さくなっている その他の各種商品小売業
- ・ 館内装飾を全館一斉にクリスマス装飾にし、クリスマスムードを高めたため、実売期である重衣料やブーツ、季節商材などが動き、後半に掛けても好調に推移している。 その他の各種商品小売業
- ・ 11月に入り動きが少なく、盛り上がり欠けています。この感じだと繁盛期のクリスマスも心配です 菓子・パン小売業



平成24年11月CCI-LOBOとの比較







- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲39.6に対し、「CCI-LOBO」が▲31.1で柏の方がマイナス幅が▲8.5ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業。「柏の景気」の方が悪い業種はサービス業・卸小売業・建設業で、サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲27.7に対し、「CCI-LOBO」が▲23.1で、柏の方がマイナス幅が▲4.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業・建設業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲40.5に対し、「CCI-LOBO」が▲28.2で、柏のほうマイナス幅が▲12.3ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業・建設業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲17.8に対し、「CCI-LOBO」が▲15.1で、柏の方がマイナス幅が▲2.7ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業・卸小売業。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が2.9に対し、「CCI-LOBO」が0.3で、柏の方がプラス幅が2.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業・建設業で、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業・製造業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲17.8に対し、「CCI-LOBO」が▲17.3で、柏の方がマイナス幅が0.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業・製造業・建設業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業で、10ポイント以上悪い。











平成24年11月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 39.6	 20.6	 27.7	 55.8	 50.0
CCI LOBO	 31.1	 17.9	 37.6	 39.9	 27.9


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 27.7	 13.7	 22.2	 47.0	 20.0
CCI LOBO	 23.1	 7.9	 30.5	 30.6	 20.9


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 40.5	 34.4	 27.7	 61.7	 25.0
CCI LOBO	 28.2	 23.5	 34.2	 33.2	 25.1

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 17.8	 34.4	 ±0.0	 17.6	 10.0
CCI LOBO	 15.1	 24.8	 10.8	 12.8	 19.9

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 2.9	 10.3	 11.1	 8.8	 25.0
CCI LOBO	 0.3	 5.6	 9.7	 4.8	 6.7

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 17.8	 6.8	 11.1	 35.2	 10.0
CCI LOBO	 17.3	 13.2	 18.6	 21.5	 17.7

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (11月速報)

調査期間：平成24年11月15日～21日

調査対象：全国の417商工会議所が3096業種
組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、ほぼ横ばいで推移。先行き不安は根強い

11月の全産業合計の業況DIは、31.1と、前月から+1.5ポイントの小幅改善。公共工事・住宅に動きのあった建設業や、冬物商品・ギフト関連が好調だった小売業がけん引。一方、製造業では中国経済の減速に加え、日中関係悪化に伴い、低迷が続いている。

先行きについては、先行き見通しDIが33.1（今月比2.0ポイント）と、悪化する見込み。このところの円安・株高傾向は好材料であるものの、中国経済の減速や日中関係悪化の長期化に伴う影響に加え、円高の定着、電力料金の値上げ、個人消費の減退など、中小企業を取り巻く厳しい状況が続く見込みであることから、先行きに対する不安は根強い。

産業別にみると、業況DIは、製造業は悪化、サービス業はほぼ横ばい、その他の3業種は改善した。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「消費税増税前の駆け込み需要に伴う資材価格の高騰を懸念」（一般事業）、「災害復旧工事の発注が開始され、業況は改善。先行きの見通しも良い」（建築工事業）、「慢性的な人手不足により、住宅工事の受注は見込めるものの、施工の対応ができない」（一般事業）

【製造業】「自動車用ベアリング部品の受注が3割減を見込む。設備投資の中止や操業短縮を検討中」（ベアリング部品製造業）、「携帯電話の基地局アンテナ関連で受注があったものの、主力の半導体・液晶関連の落ち込みが激しい」（電気・精密機械製造業）、「原材料価格の下落により販売不振をカバーしている状況が続いており、先行きは不透明」（製紙業）

【卸売業】「好天が続ぎ、キヤベツなどの野菜が豊作だったことから、供給過剰の状態。単価が下がり、売上に響いている」（農産物卸売業）、「戸建て住宅関連の資材が好調で、売上が大きく伸びている」（製材卸売業）、「業況は好調に推移しているものの、12月から粉類の価格が

上昇する見込み。取引先からの値下げ圧力が強く、価格転嫁が進まない」（製菓・製パン卸売業）

【小売業】「冬物衣料の売上が伸びており、食品も回復傾向。年末商戦に向けた対応も急務」（百貨店）、「消費者の低価格志向が強いほか、産地直送・ネット販売等との競合もあり、売上は減少傾向」（米穀類小売業）、「惣菜をはじめ、ターゲットを絞った商品開発や宣伝効果により、コンビニを利用する高齢者が増加。従来からの商店街の顧客が奪われている」（商店街）

【サービス業】「自動車メーカーの輸出不振・減産に伴い、物流量が減少している」（運送業）、「復興工事の現場作業員が、宿泊先の旅館から撤収しはじめている」（旅館業）、「システム投資の受注は増加傾向にあるが、人材が不足しており、恩恵は少ない」（システム開発）

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
6月	▲21.3	▲19.1	▲13.7	▲14.5	▲34.2	▲21.5
7月	▲25.2	▲25.8	▲18.1	▲23.6	▲43.1	▲15.6
8月	▲23.8	▲19.6	▲21.9	▲27.3	▲34.3	▲16.6
9月	▲26.6	▲16.6	▲27.8	▲19.3	▲40.3	▲22.5
10月	▲32.6	▲21.5	▲33.8	▲29.1	▲45.9	▲27.6
11月	▲31.1	▲17.9	▲37.6	▲26.1	▲39.9	▲27.9
見通し	▲33.1	▲25.1	▲37.4	▲26.1	▲42.4	▲29.4

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI